

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2019年12月10日まで（2000年3月31日設定）
運用方針	中長期的な信託財産の成長と配当収入の獲得を目標に、積極的な運用を行います。主としてわが国の株式の中から、市場平均を上回る配当利回りを有する銘柄を厳選して投資することを基本とします。株式の組入比率は、原則として高位を維持します。
主要運用対象	わが国の株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書(全体版)

日本株セレクト・オープン “日本新世紀” 日本株インカム・ファンド



第31期（決算日：2015年6月10日）



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「日本株インカム・ファンド」は、去る6月10日に第31期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

三菱UFJ投信株式会社は2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、「三菱UFJ国際投信株式会社」となる予定です。



東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
URL:<http://www.am.muftg.jp/>

本資料の記載内容に関するお問い合わせ先

営業企画推進部 TEL. 0120-151034
お客様専用フリーダイヤル (9:00~17:00、土・日・祝日・12月31日~1月3日を除く)
お客様のお取引内容につきましては、お取り扱いの販売会社にお尋ねください。

◆ 目 次

日本株インカム・ファンドのご報告

◇最近5期の運用実績	1
◇当期中の基準価額と市況等の推移	1
◇運用経過	2
◇今後の運用方針	6
◇1万口当たりの費用明細	7
◇売買及び取引の状況	8
◇株式売買比率	8
◇利害関係人との取引状況等	9
◇組入資産の明細	10
◇投資信託財産の構成	12
◇資産、負債、元本及び基準価額の状況	13
◇損益の状況	13
◇分配金のお知らせ	14
◇お知らせ	14

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			(参考指数)		株式組入比率	株式先物比率	投資信託証券組入比率	純資産額
	(分配落)	税金込み	期中騰落率	東証株価指数(TOPIX)	期中騰落率				
	円	円	%		%	%	%	%	百万円
27期(2013年6月10日)	12,606	1,000	32.3	1,111.97	41.0	97.6	—	4.0	13,357
28期(2013年12月10日)	13,314	530	9.8	1,256.33	13.0	94.7	—	4.4	14,101
29期(2014年6月10日)	13,182	245	0.8	1,228.73	△ 2.2	94.2	—	4.4	12,862
30期(2014年12月10日)	14,226	650	12.9	1,406.83	14.5	94.3	—	4.6	10,635
31期(2015年6月10日)	15,915	870	18.0	1,628.23	15.7	93.4	—	4.1	10,620

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) 東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値及びそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		(参考指数)		株式組入比率	株式先物比率	投資信託証券組入比率
	騰落率	東証株価指数(TOPIX)	騰落率	東証株価指数(TOPIX)			
(期首)	円	%		%	%	%	%
2014年12月10日	14,226	—	1,406.83	—	94.3	—	4.6
12月末	14,234	0.1	1,407.51	0.0	94.3	—	4.3
2015年1月末	14,341	0.8	1,415.07	0.6	95.0	—	3.8
2月末	15,398	8.2	1,523.85	8.3	95.5	—	3.5
3月末	15,608	9.7	1,543.11	9.7	93.9	—	3.9
4月末	16,231	14.1	1,592.79	13.2	94.2	—	4.3
5月末	17,198	20.9	1,673.65	19.0	94.6	—	4.1
(期末)							
2015年6月10日	16,785	18.0	1,628.23	15.7	93.4	—	4.1

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

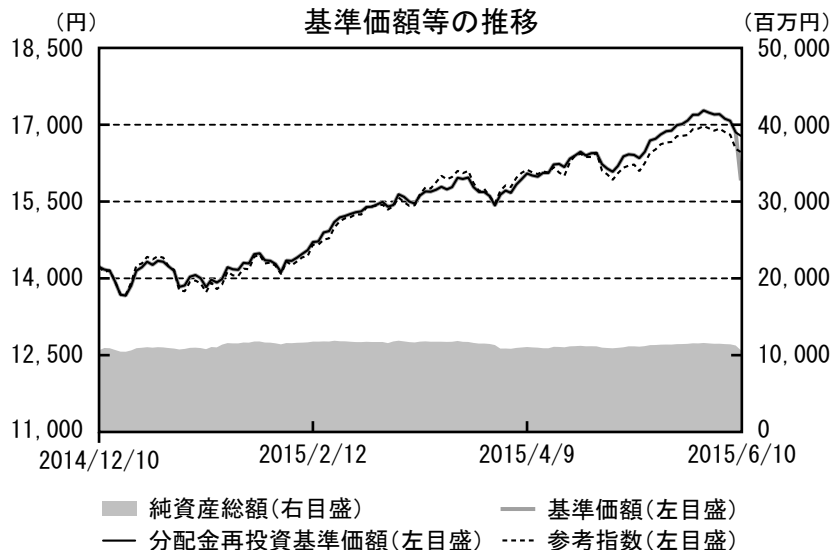
運用経過

当期中の基準価額等の推移について

(第31期：2014/12/11～2015/6/10)

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ、18.0%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。



第31期首 : 14,226円
 第31期末 : 15,915円
 (既払分配金 870円)
 騰落率 : 18.0%
 (分配金再投資ベース)

- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の変動要因

上昇要因

国内株式市場全体の上昇などが基準価額の上昇要因となりました。

投資環境について

(第31期：2014/12/11～2015/6/10)

◎国内株式市況

- ・期首から2015年2月上旬にかけては、原油価格が大幅に下落したことによる新興国経済の減速懸念やギリシャの財政悪化懸念が高まった一方、ECB（欧州中央銀行）が量的金融緩和を実施すると発表したことで株式市場への資金流入が続くと期待が高まったことなどを背景に、一進一退の動きとなりました。
- ・2月中旬から期末にかけては、国内企業の堅調な決算発表に加えて、日本と欧州における金融緩和に伴う資金や日本の年金資金が国内株式市場へ流入すると期待が高まったことなどにより、国内株式市況は上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

- ・株式組入比率は、運用の基本方針にしたがい、概ね高水準を維持しました。
- ・銘柄選択にあたっては、予想配当利回りが市場平均を上回る銘柄の中から、株価の値上がり益が期待できる銘柄を厳選して投資しました。
- ・組入銘柄数は概ね80銘柄程度で推移させました。株価水準や予想配当利回り水準等を勘案し、銘柄入替を機動的・継続的に行いました。当期では、国内最大の金融グループである三菱UFJフィナンシャル・グループなど13銘柄を新規に組み入れました。また、トラック製造大手である日野自動車など13銘柄を全株売却しました。新規組入と全株売却をした主な銘柄のポイントは以下の通りです。

◎新規組入銘柄

- ・三菱UFJフィナンシャル・グループ：株主還元やROE（自己資本利益率）を重視した経営姿勢などを評価し、新規で組み入れました。
- ・富士重工業：今後の配当性向の引き上げなど株主還元強化を期待し、新規で組み入れました。

◎全株売却銘柄

- ・日野自動車：業績の伸び悩みにより期待していた増配が実施されない懸念が出てきたと判断し、全株売却しました。

以上の投資判断の結果、組入銘柄の株価上昇により、基準価額は18.0%（分配金再投資ベース）上昇しました。パフォーマンスに寄与した主な銘柄は以下の通りです。

（プラス要因）

◎銘柄

- ・伊藤忠商事：予想配当利回り水準の高さなどから期首より保有していました。2014年度決算と同時に発表された中期経営計画などにより、2015年度以降の増益と増配への期待が高まったことなどから、株価は堅調に推移しプラスに寄与しました。
- ・積水ハウス：積極的な株主還元への姿勢を評価し期首より保有していました。2015年1月期決算の発表において、堅調な業績とともに増配や自社株買いを発表したことなどから、株価

は堅調に推移しプラスに寄与しました。

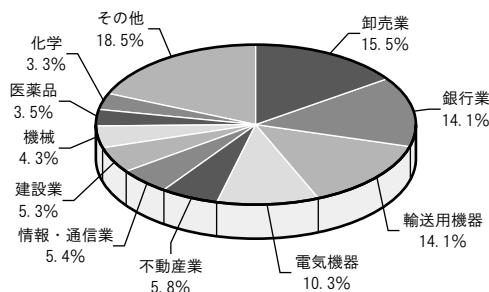
(マイナス要因)

- ・大東建託：株主還元を重視した姿勢を評価し期首より保有していましたが、労務費の上昇などを背景とした粗利率の低下が懸念され、株価が軟調に推移しマイナスに影響しました。

(ご参考)

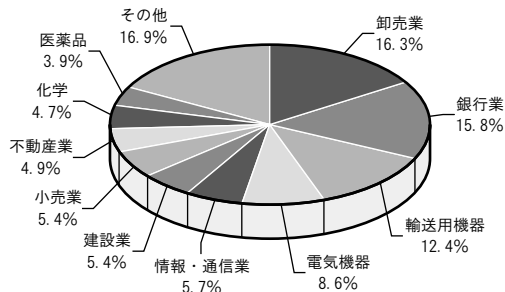
組入上位10業種

期首 (2014年12月10日)



(注) 比率は現物株式評価額に対する割合です。
(注) REITは不動産業に含めて表示しています。

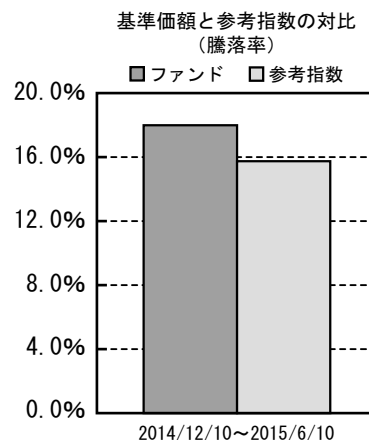
期末 (2015年6月10日)



(注) 比率は現物株式評価額に対する割合です。
(注) REITは不動産業に含めて表示しています。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ・参考指数は東証株価指数（TOPIX）です。



- ・ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第31期	
	2014年12月11日～2015年6月10日	
当期分配金	870	
(対基準価額比率)	5.183%	
当期の収益	870	
当期の収益以外	—	
翌期繰越分配対象額	6,988	

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

◎運用環境の見通し

- ・国内株式は中期的に魅力的と見ています。全体として国内企業の業績は、堅調に推移しており、消費税増税の反動減の影響がなくなることや現状の為替水準等を考えれば、2015年度以降の企業業績にも期待が持てる状況と考えています。加えて、国内企業のなかで、欧米諸国の企業と比較して低いROEを引き上げようとする動きが加速している点も国内株式市況に対してはポジティブに捉えています。こうした企業業績の伸張や株主還元の強化などにより増配を実施する企業の増加が期待されることから、企業業績の伸張と併せて配当に対する関心は今後さらに高まってくると考えています。

◎今後の運用方針

- ・今後も企業調査を十分に行い、予想配当利回りの高い銘柄を中心に投資し、「高水準の配当収入」と「中長期的な株価の値上がり益」の獲得をめざす基本方針を継続します。加えて、財務の健全性や株式の流動性に留意しながら、保有銘柄の比率調整や新規銘柄の組み入れを行います。なお、TOPIXはあくまで参考指数であり、引き続き基本方針に重きを置いた運用を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2014年12月11日～2015年6月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 125	% 0.808	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(58)	(0.377)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(59)	(0.377)	分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等の送付、購入後の説明・情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(8)	(0.054)	投資信託財産の保管・管理、運用指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	9	0.064	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(9)	(0.061)	有価証券等を売買する際に発生する費用
（ 投 資 信 託 証 券 ）	(0)	(0.003)	
(c) そ の 他 費 用	0	0.001	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	134	0.873	
期中の平均基準価額は、15,501円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2014年12月11日～2015年6月10日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株	千円	千株	千円
		2,276 (1)	2,777,248 (-)	3,914	4,718,377

(注) 金額は受渡代金。

(注) ()内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国 内	アドバンス・レジデンス投資法人	千口	千円	千口	千円
	ユナイテッド・アーバン投資法人	0.114	33,697	0.228	69,214
	森トラスト総合リート投資法人	0.188	36,109	0.237	44,759
	ケネディクス・オフィス投資法人	0.172	42,444	0.162	39,460
	大和ハウス・レジデンシャル投資法人	0.053	35,653	0.08	53,567
		0.08 (0.089)	22,629 (-)	0.033	10,024
合	計	0.607 (0.089)	170,534 (-)	0.74	217,026

(注) 金額は受渡代金。

(注) ()内は分割・合併および償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2014年12月11日～2015年6月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	7,495,625千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	10,760,044千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.69

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2014年12月11日～2015年6月10日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
		うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$		うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
株式	2,777	785	28.3	4,718	967	20.5
投資信託証券	170	9	5.3	217	26	12.0

利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
	百万円	百万円	百万円
株式	260	42	295

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	7,283千円
うち利害関係人への支払額 (B)	1,828千円
(B) / (A)	25.1%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2015年6月10日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
水産・農林業 (0.3%)			
ホクト	12.7	11.8	28,744
建設業 (5.7%)			
大東建託	13.9	10.1	125,240
日本道路	61	57	35,967
パナホーム	40	38	34,200
積水ハウス	201.2	162.2	319,209
関電工	—	59	45,725
食料品 (2.7%)			
森永製菓	115	—	—
コカ・コーラウエスト	—	11.5	24,909
日本たばこ産業	49.9	56	242,144
化学 (4.9%)			
クラレ	25.2	21.4	33,491
電気化学工業	116	105	59,535
住友ベークライト	—	41	23,575
太陽ホールディングス	28.9	24.1	122,187
東洋インキＳＣホールディングス	141	128	67,072
ポーラ・オルビスホールディングス	—	18.9	123,039
アース製薬	14.4	13	59,670
医薬品 (4.1%)			
武田薬品工業	41	39.7	239,788
科研製薬	33	—	—
エーザイ	17.9	—	—
第一三共	—	72.5	168,200
石油・石炭製品 (2.4%)			
東燃ゼネラル石油	142	146	176,514
JXホールディングス	139.9	112.8	62,953
ゴム製品 (1.0%)			
横浜ゴム	41	—	—
ブリヂストン	44.1	21.8	102,536
ガラス・土石製品 (0.2%)			
日本電気硝子	—	35	22,435

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
鉄鋼 (—%)			
丸一鋼管	11.1	—	—
非鉄金属 (2.8%)			
日本軽金属ホールディングス	269.3	211.2	46,675
住友金属鉱山	107	98	194,628
アサヒホールディングス	15.7	14.1	31,541
機械 (3.1%)			
アマダホールディングス	54.7	42.7	55,339
アイダエンジニアリング	48	39.7	55,778
ディスコ	9.1	—	—
小松製作所	21.3	—	—
平和	31.8	30.2	73,416
SANKYO	11	10.1	44,339
マックス	63	59	76,700
電気機器 (8.9%)			
I D E C	63.8	54	59,832
ワコム	91.2	—	—
E I Z O	—	7.5	21,622
日立マクセル	27	—	—
アズビル	26.5	18.7	62,271
スター精密	100.6	102.4	219,033
キャノン	128.4	103.3	429,728
リコー	157.2	74.4	93,000
輸送用機器 (13.0%)			
日産自動車	394.5	335.9	421,722
トヨタ自動車	104	84.3	689,742
日野自動車	165.8	—	—
富士重工業	—	38.9	175,769
その他製品 (—%)			
ダンロップスポーツ	27.6	—	—
大日本印刷	81	—	—
陸運業 (0.9%)			
センコー	99	121	90,871

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
空運業 (2.4%)			
日本航空	79.6	58.5	233,415
情報・通信業 (6.0%)			
コーエーテックモホールディングス	48.1	50.5	106,757
ティーガイア	73.2	59	99,651
ネットワンシステムズ	26.9	22.3	19,401
沖縄セルラー電話	19.2	17.9	63,008
NTTドコモ	151.3	122	279,075
NSD	16	15.8	25,043
卸売業 (17.0%)			
ナガイレーベン	49.5	41.9	95,699
第一興商	21.2	26.4	112,992
伊藤忠商事	347.6	279	453,375
三井物産	260.5	209.7	351,562
三菱商事	95.1	77.3	212,961
阪和興業	146	217	121,086
稲畑産業	74.6	52.2	71,670
東陽テクニカ	10.3	9.5	10,687
P a l t a c	56.3	46.1	93,905
日鉄住金物産	166	150	68,550
オートバックスセブン	21	18.9	37,667
因幡電機産業	14.8	13.4	57,017
小売業 (5.6%)			
ローソン	26.6	22.3	185,536
エディオン	38.1	32.7	29,528

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額	
	千株	千株	千円	
DCMホールディングス	43.3	37	41,921	
島忠	—	15.8	50,797	
チヨダ	9.9	9	24,642	
AOKIホールディングス	—	14.8	25,278	
青山商事	—	35.4	165,672	
ユニグループ・ホールディングス	71.1	44.3	31,453	
銀行業 (16.5%)				
あおぞら銀行	1,150	926	436,146	
三菱UFJフィナンシャル・グループ	—	336.4	295,022	
りそなホールディングス	191.8	—	—	
三井住友フィナンシャルグループ	84.1	62.6	343,548	
みずほフィナンシャルグループ	2,726.7	2,174.2	558,334	
証券、商品先物取引業 (0.6%)				
松井証券	72.6	58.8	62,386	
その他金融業 (0.5%)				
日立キャピタル	—	17	53,040	
不動産業 (0.7%)				
野村不動産ホールディングス	56.1	28	70,840	
サービス業 (0.7%)				
ラウンドワン	81.4	48.1	28,379	
メイテック	9.9	9	40,230	
合 計	株 数 ・ 金 額	9,625	7,989	9,915,426
	銘柄数 < 比率 >	75	75	< 93.4% >

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

国内投資信託証券

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
	千口	千口	千円	%
アドバンス・レジデンス投資法人	0.345	0.231	69,877	0.7
ユナイテッド・アーバン投資法人	0.55	0.501	91,382	0.9
森トラスト総合リート投資法人	0.449	0.459	104,606	1.0
ケネディクス・オフィス投資法人	0.192	0.165	105,435	1.0
大和ハウス・レジデンシャル投資法人	0.088	0.224	60,592	0.6
合 計	口 数 ・ 金 額	1	431,893	
	銘 柄 数<比 率>	5	<4.1%>	

(注) 比率および合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2015年6月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	9,915,426	87.5
投資証券	431,893	3.8
コール・ローン等、その他	983,936	8.7
投資信託財産総額	11,331,255	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2015年6月10日現在)

項目	当期末	円
(A) 資産	11,331,255,228	
コール・ローン等	171,382,426	
株式(評価額)	9,915,426,090	
投資証券(評価額)	431,893,000	
未収入金	693,969,098	
未収配当金	118,584,322	
未収利息	292	
(B) 負債	710,282,942	
未払収益分配金	580,602,341	
未払解約金	38,111,927	
未払信託報酬	91,410,290	
その他未払費用	158,384	
(C) 純資産総額(A-B)	10,620,972,286	
元本	6,673,590,136	
次期繰越損益金	3,947,382,150	
(D) 受益権総口数	6,673,590,136口	
1万口当たり基準価額(C/D)	15,915円	

○損益の状況 (2014年12月11日～2015年6月10日)

項目	当期	円
(A) 配当等収益	160,768,394	
受取配当金	160,428,390	
受取利息	43,561	
その他収益金	296,443	
(B) 有価証券売買損益	1,560,630,984	
売買益	1,867,991,044	
売買損	△ 307,360,060	
(C) 信託報酬等	△ 91,568,674	
(D) 当期損益金(A+B+C)	1,629,830,704	
(E) 前期繰越損益金	38,502,097	
(F) 追加信託差損益金	2,859,651,690	
(配当等相当額)	(3,576,129,840)	
(売買損益相当額)	(△ 716,478,150)	
(G) 計(D+E+F)	4,527,984,491	
(H) 収益分配金	△ 580,602,341	
次期繰越損益金(G+H)	3,947,382,150	
追加信託差損益金	2,859,651,690	
(配当等相当額)	(3,576,129,840)	
(売買損益相当額)	(△ 716,478,150)	
分配準備積立金	1,087,730,460	

<注記事項>

①期首元本額	7,476,237,480円
期中追加設定元本額	1,549,843,746円
期中一部解約元本額	2,352,491,090円

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

②分配金の計算過程

		第31期
費用控除後の配当等収益額	A	152,215,880円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	1,477,614,824円
収益調整金額	C	3,576,129,840円
分配準備積立金額	D	38,502,097円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	5,244,462,641円
当ファンドの期末残存口数	F	6,673,590,136口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	7,858円
1万口当たり分配金額	H	870円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	580,602,341円

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金 (税込み)	870円
------------------	------

- ◆分配金は決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。
- ◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、2015年6月10日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。
- ◆課税上の取り扱い
 - ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
 - ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
 - ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
 - ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※2014年1月1日より、少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」がご利用になれます。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。

*三菱UFJ投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<http://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

[お 知 ら せ]

2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。）の税率が適用されます。